発　行　所
公益財団法人　日本海事広報協会
〒104-0043　東京都中央区湊２－12－６
電話 03-3552-5034　　ＦＡＸ 03-3553-6580
購読料
１カ月　761円(本体価格　705円・税 56円)送料込　884円
年　間9,136円(本体価格8,460円・税676円)送料込10,612円
郵便振替口座　00130-3-136412
（毎月１日11日21日旬刊発行）

海上の友

海と船の雑誌・ラメール
LA MER
〈隔月刊誌〉定価720円・年間購読4,320円（6号分・送料別）
〈申し込み〉公益財団法人　日本海事広報協会
〒104-0043　東京都中央区湊2丁目12番6号（湊SYビル）
TEL03-3552-5033 FAX03-3553-6580 メールlamer@kaijipr.or.jp

謹賀新年

平成29年1月1日号

登檣礼で出航の挨拶をする実習生たち

若い力が支える海運の未来

〝太平洋の白鳥〟がハワイへ向けて羽ばたいた―。

12月10日午後2時、海技教育機構の練習帆船「日本丸」が、実習生110名を乗せてハワイへ向けて遠洋航海に出航した。出航式には、石井啓一国土交通大臣も臨席し、激励した。

「日本丸」は、ナウィリウィリ（カウアイ島）、ホノルル（オアフ島）に寄港し、2017年2月8日、東京に帰港する。

（6～7、12面に特集記事）

快晴に恵まれた12月10日、帆船「日本丸」の後部甲板上で、出航式が行われた。実習生は、全国5つの商船系高等専門学校（富山、鳥羽、広島、弓削、大島）の4年生110名（うち女子は11名）。冬の北太平洋の荒波を超えカウアイ島ナウィリウィリ、オアフ島ホノルルへの寄港をへて、2017年2月8日、東京港に帰港する予定だ。

出航式を前に、実習生が家族や友人らとしばしの別れを惜しんでいた。

大山泰知さん（広島商船高専）は香川県から駆けつけた母親の知恵さんと記念撮影に臨んだ。「これまでの訓練で自信がつきました。頑張ります」と語る泰知さんに、知恵さんが顔をほころばせた。

竹俣多聞さん（同）の父の正三さんも、広島商船高専の出身で「日本丸」で実習を受けた。居室は偶然、多聞さんと同じだったという。「感無量です」と正三さん。多聞さんは「身が引き締まります」と意気込みを語った。

美濃春香さん(同)は広島から見送りに来た母の恵子さんと敬礼でポーズを決めた。「緊張感を持って訓練に臨み、成長したい」という春香さんに「応援しています」と恵子さんがエールを送った。

出航式には石井国土交通大臣が臨席し、「皆さんはこれからの日本を支える優秀な船員になっていかれる。我が国の海運を担うためには、常に誇りとやりがいをもって訓練に励み、さらなる研さんに努め、一回りも二回りも大きくなって帰港されることを期待している」と訓示を述べ、激励した。

「日本丸」の奥知樹船長は、「これから我々が渡る海は、冬の厳しい荒れ狂う北太平洋である。司馬遼太郎は著書の中で、自然の中で訓練によって自己を作ることの意義を説いている。日本丸で太平洋を渡ることは自己を確立するために最も適した場所の一つである。それぞれを気遣いながら、一つの家族としてこの航海を成就することを胸に、一意専心の気持ちでこの航海に臨む」と出航の挨拶を行った。

午後2時、「日本丸」が静かに離岸すると、クライマックスの登檣礼が始まった。裸足でマストを登る実習生。多数の立候補者の中から選挙によって選ばれたチアリーダーの号令で、一斉に「ごきげんよー!!」と帽子を掲げると、岸壁から大きな拍手がわき起こった。

2017年元旦。「日本丸」はハワイを目前に新しい年を迎える。

大山泰知さん（右）と母の知恵さん

石井大臣

奥船長

竹俣多聞さん（左）と父の正三さん

美濃春香さん（左）と母の恵子さん

今号のおもな記事

2面　新年ご挨拶　日本海事広報協会　会長　芦田昭充
4~5面　海務担当役員メッセージ
6~7面　特集「日本丸」が育む船員魂
8~9面　商船大出身初の女性教授　庄司先生
10~11面　東京湾で合同消防演習　東京消防庁
12面　さかなクンがナビオスに

海事広報ホームページ http://www.kaijipr.or.jp
Eメール　kaijo-no-tomo@kaijipr.or.jp